



2026年

8月

中国四国農政局
高知県拠点

第5回こうち農業女子交流会を開催

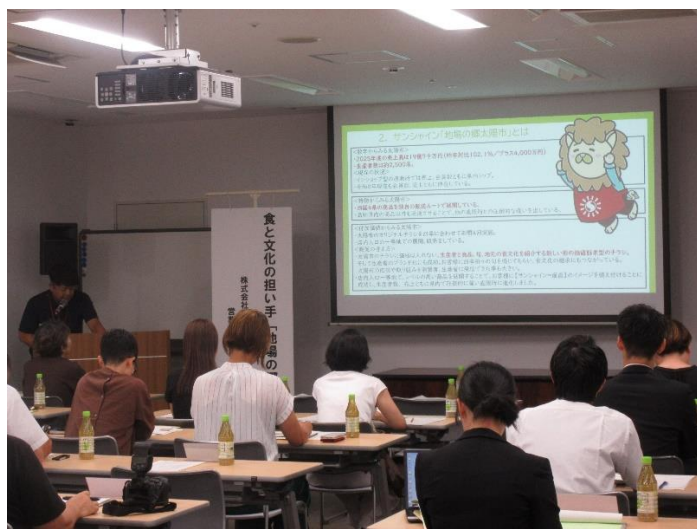
高知市

令和8年8月4日、中国四国農政局高知県拠点は、新来島高知重工ホールにおいて、第5回こうち農業女子交流会を開催しました。当交流会は、女性農業者同士の横のつながりを築き交流する場となっています。今回は、県内の女性農業者13名が参加し、講師による講演と参加者によるグループミーティングが行われました。

講演では、高知県を中心に地域密着のスーパーマーケットを展開する株式会社サンシャインチェーン本部の荒井茂雄さんを講師に迎え、「食と文化の担い手『地場の郷太陽市』」と題して、地産地消の取組と現状、今後の展望等について講演いただきました。

23年前にスタートした太陽市は、地区の生産者が持ち込んだ商品を販売する、ごく一般的な地区完結型の直売所だったといいます。

しかし、数年が経過すると、直売所には同じ商品が同じように並んでいるというマンネリ感から、直売所の勢いが停滞するようになりました。



講演の様子

このため、現在は、県内及び四国内に集荷センターを設置し、複数地域の商品を相互に流通させる地域交流型の直売所に発展して展開されています。

また、四季ごとに発行する太陽市のチラシには、価格を記載するのではなく、生産者と商品、旬や地元の食文化を紹介する新しい形の価値訴求型のものとなっています。

講師の荒井さんは「太陽市は、各スーパー店内入口の一等地で販売しており、会員は小規模から大規模の方まで多くいます。興味がある方はお気軽にお声掛けください。」と話されました。



熱心に講演を聞く参加者

講演で紹介した「太陽市」の
取組についてはこちら

太陽市 <https://sunshinechain.com/local/>
【運営・展開】株式会社サンシャインチェーン本部



次いでグループミーティングでは、「私がやりたい農業をどう実現する!」、「10年後、地域農業をどう守る?」等のテーマで、参加者による意見交換が行われました。

参加者からは、資材や重油の価格上昇等により農業経営が厳しい状況で、10年後よりも5年後が見通せないことや、現在も労働力確保が困難な状況であるとの意見がありました。



グループミーティングの様子



グループミーティングの様子

一方、若い人を多く雇用し、ボーナスを払えるようにしたいことや、有機JAS等を取得し差別化を図りたいとの前向きな意見も多くありました。

そのほか、交流会を契機に参加者間で連絡先の交換を行い、高知県産品の販売拡大を目的とした商談会等の情報交換も行われていました。

高知県拠点では、今後もより多くの女性農業者に参加いただける交流会を目指し、継続して取り組みます。



交流会参加者との記念撮影

©「News Letter」は、不定期発行しています。

編集: 中国四国農政局 高知県拠点

〒780-0870 高知市本町4丁目3-41 高知地方合同庁舎

TEL (088)875-7236(代) <農政局HP> <https://www.maff.go.jp/chushi/>

◆ニュースレターに関するアンケートにご協力ください。 <https://www.contactus.maff.go.jp/j/chushi/form/nl180401.html>